

農村ツーリズム展開方針

令和 2 年（2020 年） 7 月 31 日
十勝総合振興局

1 地域の現状

- 十勝の農村景観や食資源を生かし、自然や食、歴史、文化、生活体験などを観光資源として活かし、農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで農泊や教育旅行に取り組む農村ツーリズムの取組が盛んで、鹿追町や新得町などは先駆的な地域となっている。
また、高校生の修学旅行受入による「教育旅行」は NPO 法人が中心となり、管内全域で取組を行い、都市と農村地域の関係人口増加に寄与している。
- 近年は、ファームインの増加が顕著であり、要因として、教育旅行の受入体制が整備されてきたことや近年の農泊推進によるものと考えている。
- また、国では、農山漁村地域ならではの伝統的な生活体験や地域の人々との交流を行い、その地域に滞在する「農泊」を推進しており、都市からの観光客のほかインバウンド客を呼び込むため、国の事業等を活用しながら様々な地域で特色ある取組が行われている。

2 地域の抱える課題

- 十勝は、道内でも教育旅行や農泊への取組が盛んな地域であるが、都市部から十勝への人の流れを定着させるために、十勝に愛着を持つ関係人口の創出、把握、定着に向けた、管内で一貫した取組が確立していない。
- 近年（H28以降）、受入農家減少により教育旅行受入の要望に対し、高校生の受け入れ人数を減少せざるをえなく、管内で活動する NPO 法人では普及部会を設置し、新規受入農家の掘り起こしの働きかけを行うなど、受入農家確保が問題となっている。
- 新型コロナウイルスの影響により、農村ツーリズムに関する活動の中止が相次ぎ、事業継続が厳しい状況となっている。

3 今後の展開方針

- 管内の農村ツーリズム活動へのコロナウイルスの影響を最小限にとどめ、円滑な活動再開を目指し、都市と農村地域の交流を通じて農業・農村への理解促進を図るため、持続可能な事業が多様な形で展開できるよう、情報提供や情報交換に努めていく。
- 都市部から十勝への人の流れを把握し、地域の活性化を図るため、農村ツーリズムに関する道推進事業や農山漁村振興交付金をはじめとする国費事業の活用に向けて、管内取組事業者への丁寧な助言を行っていく。
- 地域内滞在の長期化、関係人口の定着化をはかるため、十勝の農村地域の魅力を発掘・充実のほか、十勝地域の観光関連情報の情報交換や発信をしていく。